

第29回万国地質学会議開会式における通商産業大臣挨拶

まずはじめに、私は日本政府において科学技術の振興に努めている者のひとりとして、第29回万国地質学会議の開催をお祝い申し上げたいと存じます。

また、本日ご列席の皆様方が、地球科学の絆の下に、国境や世代を越えて人類の発展に寄与する活動に携わってこられたご努力に対して衷心より敬意を表するとともに、栄えある本会議の日本での開催を大変名誉に感じていることを申し上げたいと存じます。本会議の開催のためにご尽力された事務局他ご関係の皆様へ感謝申し上げる次第であります。

私は、今、地球科学という言葉に宇宙から青く丸い地球を眺めるような夢とロマンを感じるとともに、それが次のような様々な局面で私達の日常生活に大変密接に係わっていることを実感しています。

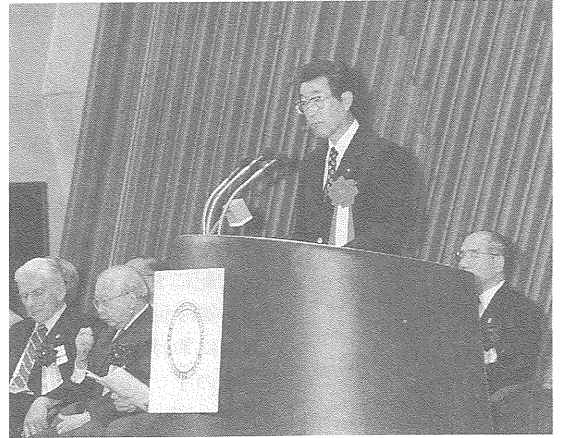
まず、巨大地震、火山噴火等の自然災害の予知と適切な対策の推進は、私達の生命や生活の安全を確保する上で今後とも重要な課題であります。昨年におけるフィリピンのピナツボ火山や我が国九州地方の雲仙岳の大規模な噴火は、それを改めて浮き彫りにしました。

また、鉱物・エネルギー資源の確保や大深度地下利用といった諸課題の実現は、人類の更なる繁栄のために、また、天然資源の多くを海外に依存している我が国にとって最も重要な課題となっております。

加えて、近年、人類は、世界規模の人口増加や経済活動の拡大に伴い、地球温暖化問題、有害物質による大気・土壌・海洋汚染問題等の地球環境問題に直面しています。世界各国は、本年6月にブラジル・リオデジャネイロにおいて国連環境開発会議(UNCED)を開催する等、協力して解決策を模索しています。今日改めて、人間と自然の地球規模での共存が求められています。

以上のような諸課題を実現していくために、私は、問題の所在とその本質の科学的な解明が最も重要であり、地球科学の役割が益々大きくなってきていると認識しております。

特に、私は、自然災害への取り組みの重要性にかんがみ、また、地球環境問題をも視野に入れて、こ



挨拶する渡部恒三通産大臣

の場で新たな提案を行いたいと考えています。すなわち、我が国の地球資源衛星のデータを活用して、自然災害の諸現象に関するデータベースの構築と解明を行い、世界的な自然災害マップを作成することを提案したいと思います。このため、各国の地質調査所を中核とする国際研究協力の世界的ネットワークの強化を呼びかけたいと思います。また、より多くの国々が本事業に関する交流と協力を行えるよう積極的に支援していきたいと考えています。その第一歩として、私は、来年我が国において専門家による国際フォーラムを開催することを申し出たいと思います。これを契機に、本提案が実行に移され、次回万国地質学会議までに着実に進展することを期待する次第であります。

本日、私は、この会場で皆様の地球科学に対する情熱、熱気に触れ、先に申し上げた諸課題の実現の基礎となる取り組みが力強く進められることを確信しました。

地球科学は、正に、人類と地球の未来への扉を開いていく鍵であるといえましょう。

本会議において、参加された皆様が新たな成果を上げられ、それを基に今後の研究等の活動を一層充実させて進めていかれることを祈念しまして私のご挨拶を終わりたいと存じます。

どうもありがとうございました。